

令和8年度「全国学力・学習状況調査」「かつらぎ町標準学力調査」結果

かつらぎ町立妙寺中学校

本年4月22日(水)から30日(木)にかけて「全国学力・学習状況調査(以下「全国学調」)」や「かつらぎ町標準学力調査(以下「CRT」)」が行われました。「全国学調」は、文部科学省が中学校3年生を対象に、学力や学習状況を把握・分析して、子供たちの学習活動の充実や改善等に役立てることを目的に、「CRT」も同様の趣旨で、かつらぎ町教育委員会が町内の中学校1・2年生を対象に実施するものです。本校では、これらの結果を丁寧に分析して、今後の学習活動や指導方法の改善を図ります。

1 学力調査の結果について

〔表の見方〕各教科・学年の本校の正答率を全国の平均正答率と比較して、下の表で示した記号で表します。

+3pを超える	+1～3p	±1p未満	-1～3p	-3pを超える
◎	○	□	△	▽

【国語】(1・2年生は「CRT」、3年生は「全国学調」)

学 年	全体	主な領域別観点					
		言葉	情報	文化	話す・聞く	書く	読む
1年生	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
2年生	○	◎	◎	◎	△	○	□
3年生	□	○	◎	調査なし	□	△	▽

- 1・2年生は全般的に平均を上回っていますが、3年生は全国平均程度です。また、2年生では「話すこと・聞くこと」について、3年生では「書くこと」や「読むこと」について、それぞれ課題があります。
- 文章の要点を捉え、理解した内容について根拠を明確にして説明することが求められます。

【数学】(1・2年生は「CRT」、3年生は「全国学調」)

学 年	全体	主な領域別観点			
		数と式	図形	関数	データの活用
1年生	△	◎	▽	△	△
2年生	◎	◎	○	◎	□
3年生	○	□	□	○	□

- 2・3年生は全般的に平均を上回っていますが、1年生はやや下回っており、特に「図形」について課題があります。また、学年を通して「データの活用」について課題があります。
- 「図形」については「予想→検証→説明」の学習過程を通して図形の性質を理解すること、「データ活用」については基本的な用語を理解する力が求められます。

【英語】(1・2年生は「CRT」、3年生は「全国学調」)

学 年	全体	主な領域別観点			
		聞くこと	読むこと	書くこと	話すこと
1年生	○	○	○	◎	調査なし
2年生	□	△	○	□	調査なし
3年生	▽	□	▽	▽	▽

- 1年生は全般的に上回っていますが、3年生は下回っています。また、2年生では「聞くこと」について、3年生では「読むこと」「書くこと」「話すこと」に課題があります。
- 基本的な語彙力を高めるとともに、読んだ内容を要約したり自分の考えを英語で表現したりする活動の充実が求められます。

2 全国学調「生徒質問調査（3年生）」の主な結果について

番号	質問事項	結果（全国比）
12	いじめは、どんな理由があってもいけない。	○ 肯定的回答が約 100%(+5p)
17	友だち関係に満足しているか。	□ 肯定的回答が約 93%(+2p)
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはあるか。	○ 肯定的回答が約 95%(+4p)
8	自分には、よいところがあると思うか。	△ 肯定的回答が約 74%(-10p)
10	将来の夢や目標を持っているか。	△ 肯定的回答が約 48%(-20p)

- 友人との良好な人間関係の中で安心感をもって学校生活を送っていると考えます。一方、自己肯定感や将来の夢や希望については課題があると考えます。

4	平日、どのくらいSNSや動画視聴などをするか。	△ 4時間以上が約 52%(+23p)
23	平日、家庭（学習塾等を含む）で、どのくらい勉強するか。	△ 1時間以上が約 45%(-16p)
25	休日、家庭（学習塾等を含む）で、どのくらい勉強するか。	△ 1時間以上が約 19%(-34p)

- 家庭での学習量について課題があり、その理由としてスクリーンタイムの影響があると考えます。安定した家庭学習の取組に向けて、家庭との連携が必要だと考えます。

53	国語の勉強は好きか。	□ 肯定的回答が約 60%(+2p)
54	国語の授業の内容はよく分かるか。	△ 肯定的回答が約 29%(-23p)
57	国語の授業で、先生はできない部分を生徒に伝え適切に指導してくれたか。	○ 肯定的回答が約 95%(+23p)

- 国語の学習では、学習内容が難しくなっているものの、丁寧な学習指導により学力が保たれていると考えます。

61	数学の勉強は好きか。	△ 肯定的回答が約 29%(-28p)
62	数学の授業内容はよく分かるか。	□ 肯定的回答が約 71%(-3p)
63	数学の授業で学んだことは、将来、社会で役に立つと思う。	○ 肯定的回答が約 88%(+12p)

- 数学への興味関心は高くないものの、数学を学ぶことの必要性について理解し、学習内容を理解しようと努めている姿勢が見られます。

70	英語の勉強は好きか。	△ 肯定的回答が約 29%(-23p)
71	英語の授業内容はよく分かるか。	□ 肯定的回答が約 67%(+2p)
72	英語の授業で学んだことは、将来、社会で役に立つと思う。	□ 肯定的回答が約 86%(-2p)

- 英語への興味関心は高くないものの、英語を学ぶことの必要性について理解し、学習内容を理解しようと努めている姿勢が見られます。ただし、生徒の理解の実感と学力の実態には差があると考えます。

3 課題と今後の取り組みについて

本校の学力については、学年や教科などによって個々の課題があると捉えています。今回の調査結果をふまえ、学力が十分に身に付いていない領域や指導事項については、授業で改めて指導をしたり補充学習をしたりするなど、生徒の習熟状況の実態に応じた指導を行うとともに、学校全体では次の点について取り組みます。

- 国語や英語では「読むこと」や「書くこと」について課題が見られたことから、全教科で「文章の要点を捉える活動」「要約指導」「根拠を明確にして考えを説明する活動」を充実させた「読んで考え、書いて表現する力」の育成に努めます。具体的には、「一文要約」や「100字要約」など限られた字数で内容を要約する活動や、根拠をふまえた自分の考えを表現する活動を、授業の冒頭や終末だけでなく、朝読書や放課後学習等の常活動も含めて取り組みます。
- 「基礎的な用語や記号の定着」「図形の操作」「他者の考えの共有や意見交換」などの幅広い学習場面においてICT機器を効果的に活用し、各教科における「見方・考え方」の育成や、個別の習熟状況の把握に努めます。また、ICT機器の活用に必要なタイピング技能の向上を図るため、朝読書の時間を活用したタイピング練習に取り組みます。
- 各教科の単元ごとの学習状況を評価するため、これまでに「全国学調」や「CRT」で出題された過去問を活用するとともに、本校が作成する定期テストや単元テスト等においても「全国学調」や「CRT」の出題方法を参考に作問し、全国や県の平均正答率と比較した客観的な数値で習熟度を評価します。
- 「基礎的な用語や記号」を着実に定着させるため、タブレットPCを使ったドリル型のオンライン教材を活用して、家庭学習の活性化を図ります。また、スクリーンタイムの管理や読書量の向上について有益な情報を提供するなど、家庭と連携した取り組みを進めます。